

みんなで考えよう 市民活動のススメ講座

東日本大震災

力になりたい!

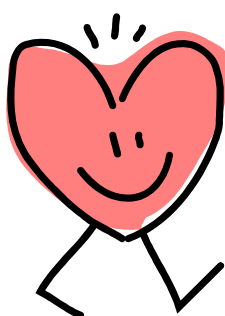
でも、どうしたらいい?

～東日本大震災 被災者支援の現場から ボランティアを考える～

地震発生から3ヵ月たった今、私たちに何ができるのか。

被災者支援の「現場」に関わった方々をゲストに迎え、ボランティア活動の情報を共有し、参加者全員で考えます。

被災地に
あなたの想いを
届けよう



2011年
6月11日(土)
13:00～16:00

参加無料

**申込先着 60人
託児あり**

**会場は・・・
市民交流センター
会議室**

お申し込みは、6月8日(水)までに電話・FAX・E-mailで!

電話：046-873-1111 (内線：7824) FAX：046-872-3003

E-mail：siminkyoudou@city.zushi.kanagawa.jp

※FAX・E-mailでお申し込みの場合は、講座名・氏名(フリガナ)・住所・電話番号を記載してください。

※託児希望者は、6月6日(月)までに、対象の子どもの氏名・年齢・性別をお知らせください。(先着5名)

※聴覚障がい者のための要約筆記、手話通訳があります。

主催・問合せ 逗子市 市民協働部 市民協働課

市民活動のススメ講座 東日本大震災 被災者支援の現場から ボランティアを考える

阪神・淡路大震災が起き、日本における「ボランティア元年」と呼ばれた1995年から16年。今回の東日本大震災では、その後の経験、ノウハウの蓄積が活かされ、さまざまなボランティア活動が活発に行われ、被災者支援に大きな役割を果たしています。しかし、救援物資を集めたものの送り先が見つからないなど、課題があることも事実です。

講座では、地震発生から3ヶ月の節目を迎えたところで、被災者支援の活動の実際についてお話を聴き、今後の被災地支援のあり方について参加者全員で考えます。

「力になりたい！」その想いを届けよう。

Next is your turn!

ゲスト・スピーカーのご紹介

阿部眞理子さん

東北広域震災NGOセンター事務局

山形を拠点に活動しているNGO、国際ボランティアセンター山形（IVY）を中心に、今回の震災に対応するプロジェクトを立ち上げた。国際協力（途上国支援）のノウハウを活かしながら、宮城県内の数多くの避難所を回り、長期にわたる支援活動を展開している。

新田明男さん

逗子市ボランティア連絡協議会 会長

逗子市が募集した救援物資（水、毛布、タオル、紙おむつ等）の受付、梱包、運搬に、連日、ボランティアの方々のまとめ役となって活躍した。

清水慈子さん

静岡県ボランティア協会 職員

同協会では、震災直後からスピーディーな支援活動を展開。3月12日には街頭募金を実施。14日には第一陣の毛布500枚を被災地に届けた。届けた毛布の数は最終的に2万枚を超えた。その後、岩手県遠野市の「遠野まごころネット」と連携し、沿岸部の被災地に定期的にボランティアを派遣している。

間邊利恵さん

逗子市役所勤務

個人の立場で、市民団体（全国の個人、NPOとの連携組織）のボランティアに応募。約一週間、宮城県石巻市や気仙沼市等で支援活動を行った。被災した子どもたちの笑顔を取り戻すことを目的とした遊び場づくり等から子どもたちと接し、また、被災地の方々との触れ合いのある様々な活動をした。



これまでの「市民活動のススメ講座」の様子です。



会場案内図

※駐車場は有料となります。